大分合同新聞

ワークシート　　年　　組　名前

大分市在住と同市出身の作家２人が大分の温泉をイメージした絵本「もくもくやまのゆけむりホテル」を作りました。

大分の温泉イメージした絵本

大分市在住、出身の作家２人がコラボ

協力し合う大切さ伝える

大分市在住の児童書作家佐和みずえさんと、絵本のイラストやデザインなど幅広く手掛ける同市出身の茶々あんこさん（東京都在住）がコラボレート。大分の温泉をイメージして描いた絵本「もくもくやまのゆけむりホテル」（フレーベル館）を作った。山奥にある動物たちの温泉ホテルで客を迎えるため奮闘する動物の姿を通し、目標に向かってみんなで協力し合う大切さを伝えている。

物語は、白い煙が立ち上る山深い温泉ホテルが舞台。ある日、100羽の渡り鳥が泊まりに来ることになった。ホテル始まって以来の大勢の客に戸惑いながらも森の動物たちが知恵を絞り、精いっぱいもてなす様子を描いている。

佐和さんと茶々さんは、2014年にJAが発刊する家庭雑誌で子ども向けのページを一緒に担当したのがきっかけで連絡を取り合うようになった。身近な温泉を題材にした話に着目し、5年ほど前から構想を練っていた。

当初は渡り鳥10羽からのスタートだったが「迫力に欠ける」と100羽に変更。編集者も交えて幾度も内容を修正し、作り上げた。イラストのラフもその都度書き直した。最後の場面で登場する100羽はそれぞれ表情や仕草に変化を持たせている。「下絵の段階で数字を打って描いた。試行錯誤したが形になったときはうれしかった」と茶々さん。色鉛筆と水彩を使った柔らかいタッチで、かわいらしい動物たちの生き生きとした姿を表現している。

佐和さんは「どんな時も気持ちに寄り添い、みんなで助け合っていたい。動物がそれぞれプロ意識を持って、一生懸命自分の役割を果たそうとする姿を見て何か感じてほしい」

本作はフレーベル館が販売する月刊誌「キンダーおはなしえほん」の2019年12月号で紹介された。書店では取り扱っていないが、同館の公式オンラインショップ「つばめのおうち」で購入できる。1冊400円。送料が別途かかる。（幸咲子）

大分の温泉をイメージして描いた「もくもくやまのゆけむりホテル」を手掛けた児童書作家の佐和みずえさん（左）とイラストを担当した茶々あんこさん

ゆけむりホテルにやって来た100羽の渡り鳥を「やまのごちそう」でもてなす場面

2020年7月8日付　大分合同新聞13面

①この絵本はどんな物語ですか？

白い煙が立ち上る山深い温泉ホテルにある日、100羽の渡り鳥が泊まりに来ることになった。ホテル始まって以来の大勢の客に戸惑いながらも森の動物たちが精いっぱいもてなす物語。

②2人の作家がこの絵本を通じて読む人に伝えたかったことは何でしょう？

奮闘する動物たちの姿を通し、目標に向かってみんなで協力し合う大切さを伝えたかった。

③作者の佐和みずえさんは何と呼び掛けていますか？

「どんな時も気持ちに寄り添い、みんなで助け合っていたい。動物がそれぞれプロ意識を持って、一生懸命自分の役割を果たそうとする姿を見て何か感じてほしい」